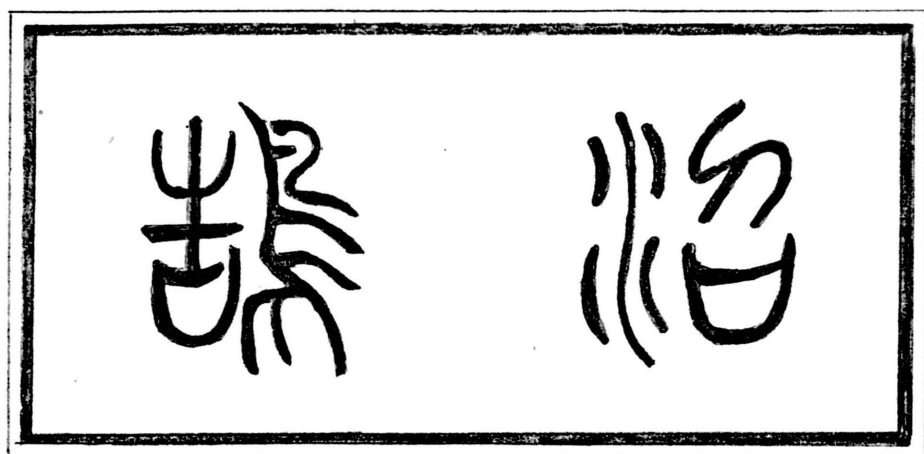




はまゆうと桜貝と

海光るわが故里

第 3 2 号

1 9 8 6 年 7 月 8 日 (火)

A.M. 10 ~ 12

掘川の尼寺さん

田中まさ子

北部見学に参加して

田中まさ子

鵜沼を語る会

堀川の尼寺さん

田中まさ子

清らかな、日光、空気を求めて、鶴沼海岸へ移り住んだのは、子供が四才の時だった。

小田急は走っていたが、何とひなびた町だろうと思った。子供と海辺で遊んだり、松ぼっくりを拾って、コンロに火を起し、浜で買った鰯を焼いて食べたり、貸別荘で療養に来ている人達と親しんだが、東京が遠くなり都落ちのような淋しい毎日だった。

私共が貸りた別荘の隣りは、広い松林で大きな松がぎっしり植っていて、ひるまも暗かった。中川さんというお年よりご夫婦が住って居られた。茅葺屋根の大きな家に、高砂の翁を見るような、おじいさん、おばあさんが、朝晩おつとめを上げる声、時にはお謡の声が流れて来て、東京の芝から移って来た私達には、それはまるで別世界の感があった。

お隣りなので、子供を連れてご挨拶に上ったら、おばあさまが出てこられ、

『坊っちゃんお弱いのですって、いけませんねえ』と色々親切にして頂いた。子供も広い松林の中でよく遊ばせて下さった。

ある日、おばあさまが、『坊っちゃんお弱いのなら、ご信心なさいませよ』と、私共を堀川の尼寺へ連れて行って下さった。

桃畠や麦畠にかこまれた、小さなお寺であつた。尼さんとはよほど親しい仲であるのか、中川さんと書院でお茶を頂いて土地の話を色々伺っ

た。とても暖かいお寺で、尼さん方は三四人居られたが私はその中の一人の尼さんが余り美しいので驚いた。日本画の中によく描かれているような清らかな美しさは今も変わらない、良栄さんという。あれから五十年も絶つのに今も良栄さんは美しく老いて居られる。

私はなぜ、こんなに美しいのに尼さんになられたのか、と聞きたい思いを五十年も持ちつづけ、まだそれを誰からも聞けないでいる。

妙海さん、頌海さん、お二人は姉妹で、とても明るい大きなお声、笑顔はいつまでも忘れられない。お二人は亡くなられたが、私の近所に居られた昔先生をなさっていた老婦人に聞いた話によれば、『尼寺さんは駆け込み寺のようですよ。』といはれた。それは、終戦後嫁とりをした家の姑さんは暗い嘆きに追いやられた。長男の結婚の条件として、こんな言葉が流行した。それは、嫁に行くなら（家つき、カァつき、ババァ抜き）と、いうのだった。

事実終戦後、嫁と姑の位置は逆転した。

悲しい姑さん達は、尼寺さんへ行って、思いのたけを、尼さんに聞いて貰った。

尼さん方はよき相談者となって、姑さんの言い分を聞いたり、又息子夫婦を寺へよんで説得したりして円満におさめたという。本当にあの明るい尼さん方の声が聞えるようだ。

私は供養のため町内の人達と尼寺を訪ねた。

ふと本堂のあみだ様の後ろの方に琵琶がおかれてあるのに気付いた。

聞いて見たら、錦心流の秋山錦賜さんの琵琶でお寺へ寄進されたものであるとのこと、

秋山権蔵さんは、五十八年の七月に八十才で亡くなられた。私は前からこの方の琵琶にすっかり魅せられて了っていた。まことに名人中の名人である。芸道の極意に達した人であった。

中でも（道成寺）得意中の得意な曲で私は何べん聞かせて頂いたか知れない。

阿弥陀仏と琵琶、尼寺ならではの風景であるのを感じた。

戦前も戦後も、海岸と本村との交流は尼寺によって、自然によくなされたようである。

今は立派な寺院となって近隣の人々の信心の道場となっている。

浄土宗、本真寺である。

北部見学に参加して

田中まさ子

五月十三日（火）九時に公民館を、バスで出発したのは、私達『鶴沼を語る会』の会員十八人でした。

私は藤沢の北部を知りたい、といつも考えていましたので、丁度よい機会でした。

とき、まさに風薫五月、新緑に風光る。まことによいお天気の日でした。

私は長年鶴沼の松林、堀川の桃畠むぎ畠、第三小学校（鶴小）あたりの水田、をなつかしく思い出して居りました。

今日はその昔の、田園風景をまのあたりに見る事が出来うれしく、バスの窓からあきず眺めました。

廻るコースは沢山あり、足弱の私はみんな見ることは出来ませんでした。宝泉寺、宇都母知神社、少年の森、花応院、などは印象に残り、もう一度ゆっくり行きたいもの、と思いました。

遠藤の宝泉寺では、前に丸山久子先生と盆踊りを見ました。すだれ（ササラ）のようなものを持って、おそろいの浴衣を着て、たすきをして、とても素朴な農村の踊りで、農村の楽しさを感じました。

文化都市から、学園都市（慶応大学用地）となっても、このようなものは残しておきたいと思いました。この後で行った『少年の森』では

今の子供の幸せを又平和の有難さを感じ、出来るものなら、もう一度生れて、少年少女にかえりたいですねと、同行の会員と語り合いました。だがどこの寺院へ行っても、水子地藏がやたら眼につき、何かいたわしく、衰れを感じ、いっかこのことは調べて書きたいものと、女の立場から思いました。

森林浴、農村のにおいを、満喫いたしました。公民館又安全運転をして下さった方々、誠に有り難うございました。

又次の機会を待っています。

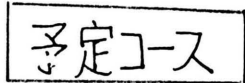
とせ。

・ 9 時 公民館集合・ 出発します。

マイクロバス

弁当・手ぬぐい・筆記用具
その他各自必要なもの

◎ アクシデント、けが等がある場合は、各自負担となりますので、その点、よろしくお願いします。



9:00 公民館集合
 9:15 柏山稲荷神社
 9:30 大庭天神社
 9:40 宗賢院
 9:50 舟地藏
 10:00 大庭城址公園
 10:30 石川のウメ
 10:50 宝泉寺
 11:10 宇都田知神社
 11:35 少年の森
 12:00 御所見公民館
 (昼食)
 12:30 用田寒川社
 12:45 東福寺
 13:00 皇子大神
 13:45 滝不動・塩井洲の辻
 天満宮
 14:15 セシ木神社
 14:45 花応院
 15:15 番隨院
 16:00 公民館(到着)

「鵠沼を語る会」会員名簿

昭和61年度

	氏 名	住 所	電 話 番 号
○	有田 裕一	鵠沼海岸2-1-20	0466-36-7298
	石井 修	茅ヶ崎市西久保1544	0467-83-0804
	岩田 吉人	鵠沼海岸2-10-24	0466-36-7593
○	内田偉三男	鵠沼藤ヶ谷3-4-27	0466-23-1011
	遠藤 隆二	鵠沼松が岡3-12-3	0466-26-7233
	遠藤 絹	鵠沼松が岡3-12-3	0466-26-7233
	榎本 一男	鵠沼海岸2-7-3	0466-36-7208
○	大久保和男	鵠沼花沢町5-5	0466-23-0790
	大橋 円明	鵠沼神明3-3-21	0466-22-9080
	川島 弘之	本鵠沼5-5-12	0466-22-9679
	葛巻左登子	鵠沼海岸3-11-5	
	久保 尚雄	藤沢3745-5	0466-81-2901
	斉藤 功一	鵠沼海岸2-4-5	
○	佐藤 和子	鵠沼海岸1-4-3	0466-34-2156
◎	塩沢 務	鵠沼海岸3-12-33	0466-36-7876
	鈴木 太仁	柄沢255	0466-23-0012
	田中まさ子	鵠沼松が岡3-3-9	0466-22-5667
	田中 一一	亀井野400-10	0466-82-3456
	常深 次郎	鵠沼海岸3-1-12 鵠沼海岸郵便局	0466-36-4921
○	寺田 良夫	鵠沼橋1-14-5	0466-22-2718
○	中村 孝治	鵠沼海岸1-3-2	0466-36-4591
○	花輪 桂	鵠沼花沢町9-8	0466-22-8317
	長谷川一夫	鵠沼桜が岡1-3-8	0466-22-5094
○	榛葉 昭市	本鵠沼2-19-10	0466-36-6651
●	富士 山	鵠沼松が岡3-8-26	0466-22-4056
	逸見千鶴子	鵠沼松が岡4-8-1	0466-22-3986

	升谷 正治	鶴沼海岸 6 - 1 7 - 6	0466-33-0228
	升谷イト子	鶴沼海岸 6 - 1 7 - 6	0466-33-0228
	持田 眞男	鶴沼桜が岡 3 - 1 0 - 5	0466-22-7536
○	吉田 興一	辻堂 6 7 3 6	0466-36-6818